



TOKYO METROPOLIS

学びのアップデート 33

Learning Updates



Contents menu



01 授業場面に応じたデジタルツールの活用実践事例動画



02 東京都が2月以降新たに公開した「デジタルを活用した実践事例」



子供たちの意見をクラス全体で共有したいけど、
デジタルツールをどのように活用すれば
いいのだろう。

授業のシチュエーションに
合わせたデジタルの活用について、
いい事例が知りたいな。



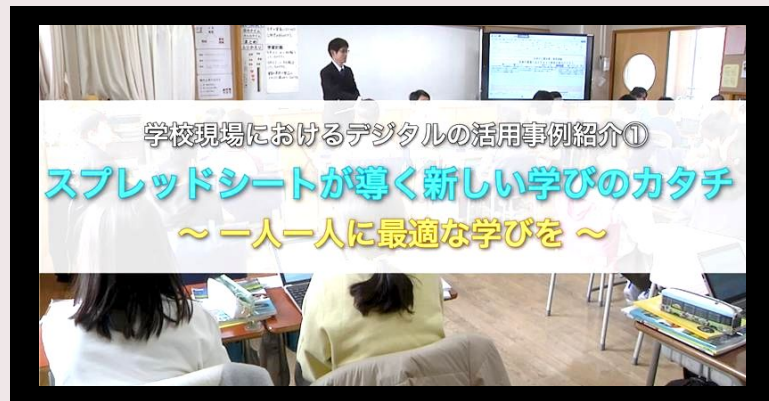
東京都では、授業の場面に合わせたデジタルツールの利活用について、各学校の協力のもと、実践事例動画を作成しましたので、ぜひ御活用ください。





こちらは、新宿区立四谷小学校の実践です。

「個別最適な学びの場面」の実践事例〔実践事例対象校・対象児童・生徒〕
新宿区立四谷小学校 第5学年：社会



日本の工業生産と貿易運輸					
日本の貿易にはどのような特色があるのだろう。					
計画	問い	問いについて調べたこと	特色や工夫	問いのまとめ・考え	学びの次はこうしたい
1	日本はどこから、何を輸入しているのだろう。	輸入量は1980年から多く増えている。特に機械類が多い。そして中国やアメリカなどから輸入が多い。また、輸入品は多岐にわたる。輸入額は1980年は31兆9千5億円だが2021年は6兆4千750億円になっている。	原料などは日本では採れないので外国からの輸入が多い。また、輸入品は多岐にわたる。輸入額は1980年は31兆9千5億円だが2021年は6兆4千750億円になっている。	輸入の特色は、原料は日本では採れないので外国からの輸入が多い。また、輸入品は多岐にわたる。輸入額は1980年は31兆9千5億円だが2021年は6兆4千750億円になっている。	次はもっと動画を見たい。
2	日本はどこへ、何を輸出しているのだろう。	日本は主に輸入と同じくらい輸出もしている。そして日本の輸出額は1980年は2兆9千352億円だったが2021年は3兆9千414億円になっている。そして輸出品も機械類が輸出額の大半を占めている。輸出品の中心は自動車、部品、電気機械などである。輸出額は1980年は2兆9千352億円だったが2021年は3兆9千414億円になっている。	日本の輸出の特色は輸出品が多岐にわたる。輸出品の中心は自動車、部品、電気機械などである。輸出額は1980年は2兆9千352億円だったが2021年は3兆9千414億円になっている。	輸出品の特色は輸出品が多岐にわたる。輸出品の中心は自動車、部品、電気機械などである。輸出額は1980年は2兆9千352億円だったが2021年は3兆9千414億円になっている。	次はもっと動画を見たい。
3	日本の貿易の現状はどのようなものになっているのだろう。	日本の貿易は輸出入のバランスがとれている。輸出入の額はほぼ同じくらいである。輸出入の額はほぼ同じくらいである。輸出入の額はほぼ同じくらいである。	日本の貿易の特色は輸出入のバランスがとれている。輸出入の額はほぼ同じくらいである。輸出入の額はほぼ同じくらいである。	日本の貿易の特色は輸出入のバランスがとれている。輸出入の額はほぼ同じくらいである。輸出入の額はほぼ同じくらいである。	次はもっと動画を見たい。

先生方のチェック

①問いのまとめ・考えを伝え合おう。②自分のまとめに友達の様子を取り入れよう。

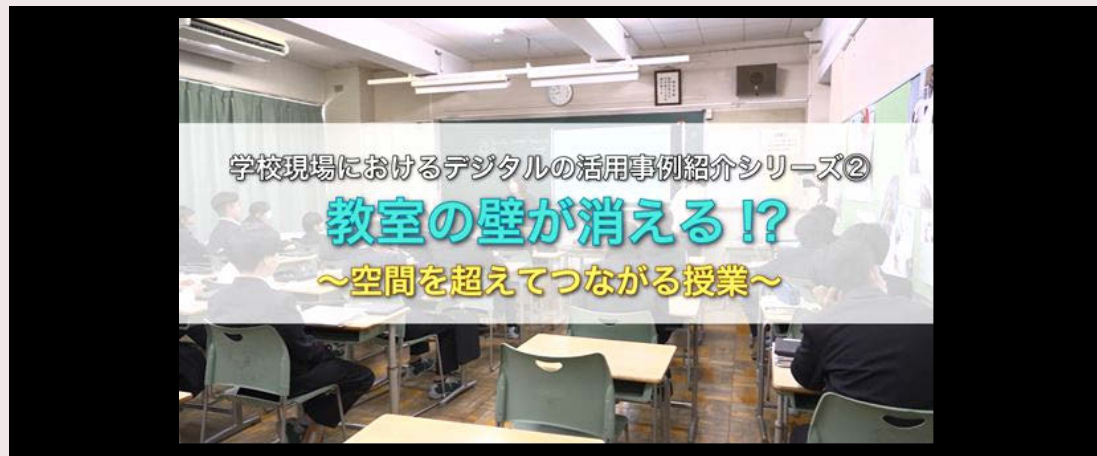
- 学習の履歴をデジタル化し、児童自身が学習状況を把握・分析できる環境の構築
 - 毎時間の「問い」に対する自己の考えや振り返りを継続的に記録・蓄積
 - 蓄積された記録を基に自己の学びを俯瞰し、自らの学習を調整
- ➡「主体的に学習を調整する」態度を育成し、
「個別最適な学び」を充実させる実践



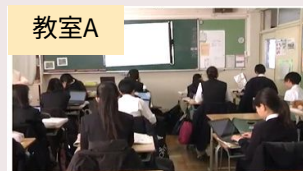


こちらは、東久留米市立久留米中学校の実践です。

「相互参照による個別最適な学び」の実践事例〔実践事例対象校・対象児童・生徒〕 東久留米市立久留米中学校 第1学年：英語 第2学年：数学



- グループや個人など、一人一人が最適な学習形態を選択して主体的に学習
 - 他者（他クラス含む）の多様な作品や解答プロセスのリアルタイム共有
 - デジタル端末をツールとして活用し、対話と学び合いを活性化
- ➔ **「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る実践**



教室A



教室B



教室C



教室D

習熟度別で展開している全てのクラスで共有

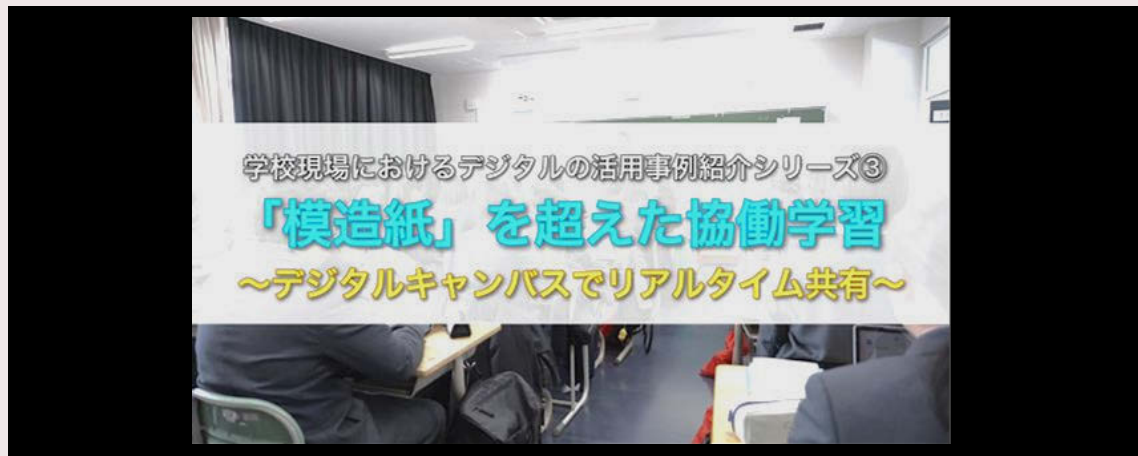


共有画面



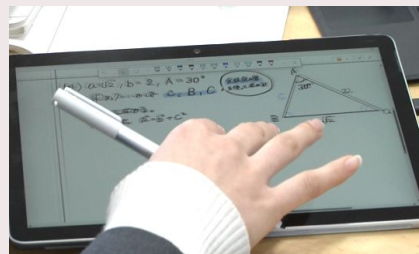
こちらは、東京都立日野高等学校の実践です。
デジタルツールの利活用について、これらの実践事例もぜひ御活用ください。

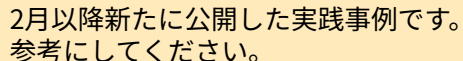
「主体的・対話的で深い学び」の実践事例〔実践事例対象校・対象生徒〕 東京都立日野高等学校 第1学年：数学



- クラウド上の共同編集機能を活用した協働学習の展開
- 自他の思考プロセスの可視化と相互参照による、多角的な問題解決
- 対話を通じた深い理解が、数学への苦手意識を軽減し、学習意欲を喚起

➡ デジタルツールの日常的な活用による「主体的・対話的で深い学び」の実現





令和8年2月13日に実施された「令和7年度東京都多摩地区教育推進委員会報告会」の資料です。児童・生徒の一人1台端末等のICT機器を効果的に活用し、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す授業実践報告書になっています。

報告書等URL：<https://www.tamajimu.metro.tokyo.lg.jp/tamasui/index.html>

主体的に学習に取り組む子供の育成
～デジタルを活用した学習活動を通して～

「バランス×仕掛け×場づくり」で
学習者の主体性を引き出す

令和8年2月
東京都多摩教育事務所

東京都多摩地区教育推進委員会 第31次計画（通算第52年次）報告書
https://www.tamajimu.metro.tokyo.lg.jp/tamasui/files/07tamasui_report_02.pdf



東京都多摩地区教育推進委員会 第31次計画（通算第52年次）報告書〔概要版〕
https://www.tamajimu.metro.tokyo.lg.jp/tamasui/files/07tamasui_leaflet_01.pdf

III 研究の概要

● 子供の主体的な学びを促す単元（題材）デザイン

令和6年度の研究に基づく、習得と探究をつなぐ単元（題材）デザインを踏まえ、教師が

- ・「なぜ学ぶか」
- ・「何を学び、何ができるようになるか」
- ・「どのように学ぶか」
- ・「どのように生かすか」

の4点を明確にしたうえで、単元（題材）を構想することにより、資質・能力を育成できると考えた。

単元（題材）全体を通して授業を構想することにより、子供が自ら学習を調整する機会を増やし、主体的に学習に取り組むことができるようにした。

前半の検証授業の考察から、単元（題材）終了時の子供の姿（ゴールイメージ）を想定して考える「授業デザインシート」（P.46 参照）を作成し、授業を行った。本シートは、単元（題材）の最終時から計画を考える構成にした。

また、本シートは、教師が何をどう教えるのではなく、子供が何をどのように学ぶかという視点で単元（題材）全体を通して授業を構想するようにした。

● 子供が自ら学習を調整し、主体的に学ぶためのデジタルの活用

子供が自ら学習を調整するために、以下の視点からデジタルの特徴及び強みを生かして実践を行った。

- ・学習に見通しをもつ
- ・目標に向かって活動し、学習活動を振り返る
- ・自身の学びの状態を把握する
- ・学び方を選択する

また、単元（題材）をデザインする段階で、デジタルを活用しながら自ら学習を調整する子供の具体的な姿を明らかにした。

校種や教科等が異なる委員4～5人でグループを編成し、実践後は、授業内における子供の姿と教師の姿について協議し、デジタル活用の効果や環境設定の有効性を検証した。

習得の段階で身に付けた力を探究の段階で活用することや、探究の段階での必要感、気付き等に応じて習得の段階と往還することを示している。

つなぐ

習得の段階

探究の段階

なぜ学ぶか

何を学び、何ができるようになるか

どのように学ぶか

どのように生かすか

基本的な考え方

● 子供が自ら学習を調整し、主体的に学ぶためのデジタルの活用の有効性

毎時間の振り返りや板書の記録等、子供が学びを蓄積することで、自ら学習を振り返り試行錯誤するなど、学習を調整する姿が見られた。また、教師は、デジタルによる子供の学習の履歴を確認しながら、個に応じた指導・助言・支援に役立てた。

教師がデジタルの活用を指示するのではなく、子供が自分でデジタルを活用する場面や内容を選択できるようにすることで、目的に沿った活用を判断する機会となり、自ら学習を調整することに有効であった。

過去の資料にいつでもアクセスできることや考えを共有し、随時、他者参照できることなどの手立てを打てば、それぞれの学びを深めることができた。

教師は、デジタルを活用することにより、子供の学びの状況を瞬時に把握することができるようになった。これまでノートを回収して、授業後に行っていた教師のフィードバックを授業中に即時に行うことができたため、授業内で、子供の理解につながる場面が増えた。

子供が個別にデジタルを活用した学びに取り組む中で、子供のつまづきを授業内でフォローをする余裕が生まれた。

子供によるデジタルの主体的選択と学習の自己調整

- 教師がデジタルの活用を指示するのではなく、子供自身が活用場面や内容を選択できるようにする。

学習状況の瞬時的な把握と授業内での即時フィードバック

- 教師はデジタルの学習履歴を随時確認し、個に応じた指導・助言・支援に役立てる。

子供の主体的な学びを促す単元（題材）デザイン

- 最終時の子供の姿を想定し、学習を自己調整する子供の姿や、デジタルの活用を考えながら、単元（題材）を構想する。

随時の他者参照と協働的な学びの充実

- デジタルを活用して他者の意見や過去の資料にいつでもアクセス・参照できる環境を整え、子供の考えの広がりや深まりにつなげる。

東京都多摩地区教育推進委員会 第31次計画（通算第52年次）報告書 「研究の概要」P.3
「研究のまとめ」P.48

https://www.tamajimu.metro.tokyo.lg.jp/tamasui/files/07tamasui_report_02.pdf

報告書内には、様々な実践事例が掲載されています。
東京都が公開しているデジタルを活用した実践事例をぜひ御活用ください。





学びのアップデート 33

Learning Updates

学習指導要領に示されている資質・能力を育むには、
指導方法、学習方法、学習環境等を更新し、最新のものにする必要があります。

また、Society5.0に向けて、
ICT機器及び環境というハード面と、それらをどう利用していくか、
授業そのものをどのように構成するかというソフト面の
両方のアップデートが求められています。

そこで、これからの
「学び」を最新のものに「アップデート」していただくことを願い、
本通信のタイトルを『学びのアップデート』としました。
東京都教育委員会のホームページにも掲載する予定です。

学びのアップデート

Society5.0 に向けた一人1台端末の活用のための実践事例通信
第33号 令和8年3月27日発行 東京都教育庁総務部デジタル推進課